

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		看護小規模多機能型居宅介護びりーぶ		公表日		令和8年 3月 日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		17	3
2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		17	3	・適宜シフト調整にて対応している。 ・医療的ケアが多い利用者には専属のような形でスタッフが配置できている。 ・看護師が交代で常時傍に付き添えるように配置されており、異変に気づきやすくなっている。	看護スタッフが足りていない。(重度が多いため)	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		17	3	・常設ではないが、利用時簡易的に環境整備して対応している。 ・呼吸器使用の重度利用者の為、ストレッチャー浴の設置、バリアフリー等配慮できている。 ・高齢者に適した環境ではあるが、こどもの特性に応じ過ぎしやすい環境をその都度考慮している。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		16	4	こども達の利用に合わせ、空間の工夫はしていると思う。 ・音楽をかけ、利用者の状況に応じて工夫している。	看多機の中の共生型サービスのため、今後動ける医ケア児の対応を考えると、活動できる空間ではない。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		17	2	・個室においては充分である。 ・基本、個室(部屋)が確保できている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		16	3	定期的な話し合いをしている。スタッフにも周知徹底している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		18	1		個人として、実施の有無を把握しておらず、分からない。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		19	1	・担当・責任者と話し合いをしている。 ・6カ月に1回、支援者と情報交換しモニタリングを行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		13	2	民生委員も参加してもらい、2か月に一度の運営推進会議で、看多機・共生型の状況報告を行い意見を頂いている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		18	1		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		19	0	支援計画書は提示している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		18	0		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		17	2		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		17	2		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		19	2	ツールによるアセスメントは行っていない。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15	3		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	17	3		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	16	2		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	14	5	重度の障害児が利用しているため、集団活動は難しいが出来るだけ他の利用者とかかわるようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15	3		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12	6		半年に一回、または問題なことは話し合いを行うが毎日の振り返りは業務上難しい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	20			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	16	3		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	12	4		個人として把握していない。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	15	4	自己決定できない障害児の場合、両親へ希望を聞いている。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	19	1		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	17	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	15	4		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	12	5		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	15	2		移行の方がまだいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	13	4	必ず子育て支援地域サポート検討会へ出席している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	12	・事業所の行事でスタッフの子供たちとの交流機会がある。 ・保育園へ保育で関わっている。	あってもわずかだと思う。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	12	5	毎回参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	18	2	訪問看護でも介入するので、共通理解を持ちやすい。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	13	5	医療的ケア児の市民向け研修には、声を掛ける前に母親が情報をすでに持っていることが多い。	個人として把握していない。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	18	2			

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	18	2		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	19	1		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	20	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	10	年に一回利用者・家族を招待してバーベQ大会を行っている。	個人として把握していない。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	19	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	16	4	「びりーぶだより」を2ヶ月に一回発行している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	19	3		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	20	0	必要に応じて、言語療法士に介入してもらっている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	16	3	地域の子供美子氏にも来てもらったり、年に一回のバーベQ大会には地域の代表に参加いただいている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	19	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	17	3		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	19	0		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	18	1	今までに、食物アレルギーのある子どもの利用はない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	18	1		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	19	2	指導を受け、R8年「びりーぶだより」で家族への周知をしていく様計画している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	18	1		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	20	0		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	19	1		